

考えよう！ユニバーサルデザイン のまち・京都

市民協働ファシリテーター養成研修

開催概要

「考えよう！ユニバーサルデザインのまち・京都」

- ・開催日時: 令和3年11月24日(水)10:00~12:00
- ・開催方法: ZOOMによるオンライン開催
- ・参加者: 11名
 - 一般参加者(市民・民間企業ゲスト): 4名
 - 京都市職員(市民協働ファシリテーター研修受講生): 7名

ワークショップの狙い

開催背景

本市では、みやこユニバーサルデザイン推進指針に基づき、高齢者、障害のある人、子ども、妊婦、外国人などが住みやすい環境整備を進めているが、ユニバーサルデザインの認知度は十分とは言えない状況。

そこで、観光都市京都として、ユニバーサルデザインの普及啓発をより一層進め、誰もが安心して生活できる環境づくりを進めていく必要がある。

問いの転換

効果的に普及するための事業や方法についてアイデアがほしい。

→ユニバーサルデザイン自体知らない人はいないのではないか？

→ユニバーサルデザインを効果的にまちづくりに生かす！

本ワークショップにおける問いのゴール

ユニバーサルデザインの効果的な普及を行うことで観光や暮らしやすさにも良い影響を及ぼす。

ワークショップのプロセス

1 問いの共有

テーマ所管課から想いの共有。

ファシリテーターからワークショップの問いとゴール、進め方、ルールの説明。

2 2人組での対話(ストーリーテリング)

「楽しく暮らしやすい未来の世界～ドラえものの秘密道具の中であなたがほしいもの～」というテーマで、2人組で対話。

3 グループでの対話(ワールドカフェ)

「UDと聞いて、思いつくこと」というテーマで、UDのイメージや5W1Hについて、途中でメンバーを入れ替えながら、小グループで対話。

4 チームづくり(マグネットテーブル)

ワールドカフェででてきたキーワードをもとに「誰もが暮らしやすいまちを実現するうえで大切なこと」というテーマについて、各自がチャットに自分の考えを書込み、一緒に検討するチームをファシリテーターが3つの観点をもとにチームを作成。

5 アウトプットの作成(クイックプロトタイピング)

「2030年11月24日京都が暮らしやすさ満足度NO.1に！その秘策とは？」というテーマで新聞記事を作成。

6 発表

各チームのアウトプットの発表

アウトプットサマリー

UDと聞いて、思いつくこと

UDのイメージについて

- ・移動する時の障害をなくすイメージ
- ・ペンのデザイン
- ・建物のバリアフリー条例が京都市にはある
- ・車の自動運転
- ・案内のサイン
- ・シャンプーのギザギザ
- ・色(チラシや発行物)
- ・それが“不便であること”に気付くためのもの(日常で不便さを感じていない人は、それが不便であることに気付かない)
- ・バリアフリーとの違いがよく分からない
- ・先進的・未来的なもの
- ・どれくらい発展しているのか分からない。
- ・便利すぎるが故に、コミュニケーションが減っている。(不便益)

誰のために必要か

- ・車椅子の利用者
- ・高齢者
- ・子育て世代の親
- ・左きき
- ・外国人
- ・「マイノリティー」と呼ばれる人たち



どのような場面で必要か

- ・寺社・仏閣に訪れた際の階段等
- ・移動
- ・制度
- ・運転しているとき(自動車・自転車)
- ・公共交通機関の乗り場(駅、バス停)
- ・建物内の案内(トイレ、階段など)

結論
どんな人、場面でも必要！





アウトプットサマリー

京都市役所が取り組めることについて

UDの認知度について

すでに多くの人が認知しているので、UDとは何かと広報やイベントを行うだけでは不十分であると考える。

より深くUDについて理解してもらえるような取組が今後は必要になってくる。

誰のために、どんな場面で必要かについて

最初は、バリアフリーとUDの違いが明確ではなかったので、障害者や高齢者に向けてという意見が多かった。

しかし、心のUDや外国人という新たなUDのイメージを理解してもらえたことにより、人物や場面にとらわれない「すべての人が暮らしやすい社会」をこれからつくっていく必要があると認識することができた。

アウトプット詳細1

新聞見出し: 1人1人が主役! バーベキュー型カフェ

記事の概要

助け合えるコミュニティの場をつくる目的として誰もが気軽に参加できるバーベキュー型カフェとオンラインで繋がれるサイトを立ち上げた。

その結果一人一人が主役として地域や社会の一員になるきっかけづくりに貢献した。

バーベキューカフェとは

店員からの料理の供給過程を最小限にすることで、来客者の共同作業、コミュニケーションを促すカフェ。多様性の理解に効果がある。

ソフト面

1人1人が主役! バーベキュー型カフェ

【取組】人と人がコミュニケーションができる・助け合えるコミュニティの場をつくった! (誰でも気軽に参加できます★)

Aさんは、困ったことなどを気軽に共有できる自分たちで運営するカフェとオンラインで繋がれるサイトを作り、いろいろな人が関わることで、一人一人が主役になれるような地域や社会の一員であることを強く認識できるような場を生み出しました!

カフェ⇒皆でコーヒーを作りながら和気あいあいと話せる空間です。

【参加者の声】

- ・自分1人で解決しなくてもいいんだ! 周りの人も頼ろうという気持ちになれました!
- ・いろいろな人と出会えて人生が豊かになり、嬉しいです!



アウトプット詳細2

新聞見出し:市民からの意見で、公共施設がより利用しやすく

記事の概要

京都市で優れた業者の技術やアイデアを生かした人口減少社会に立ち向かうユニバーサルデザインコンテストを開催。

最優秀賞には、破格の1000万円の賞金を設定した。

その結果、民間企業がハード整備を行う際に条例の基準を満たしているのはもちろんことで、それをはるかに上回る設計や施工を行うようになった。

ユニバーサルデザインコンテストとは

京都市が設けている基準を満たしていればいいと考える業者がいることに着目し、賞金を設けるコンテストを開催することにより、基準を上回る業者が増えることを狙いとするコンテスト。

ハード面

市民からの意見で、公共施設がより利用しやすく



ハード整備を行う民間事業者が条例の基準にとらわれず、利用者の気持ちに配慮した設計・施工を行うようになりました。

きっかけは、京都市が優れた業者の技術やアイデアを生かして、人口減少時代に立ち向かおうとして始めたユニバーサルデザインコンテスト。

最優秀賞には1000万円と破格の賞金を設定している。

【市民の声】

近所の工事現場の事業者たちが意見を聞いてくれるようになった！

【事業者の声】

人口減少により受注機会が減ってきていたがユニバーサルデザインに力を入れることで経営が上向きになった。

【コンテスト審査員（行政）の声】

最初は行政主導だったが、次第に民間主体で建物や道路のユニバーサルデザインが進められるようになった。



アウトプット詳細3

新聞見出し:ものづくり×UD 多様な人々が多様に幸せをつかめるマチ

記事の概要

京都市は、外国人観光客を受け入れるための「多様性」から「ユニバーサルデザイン」に着目した「多様性」のあるまちづくりを推進することを決めた。その一環としてUDを意識した日用品に力を入れるようになり、それが京都市民の日用品であり、観光客の新たな「お土産」としても注目を集めている。

ものづくり×UDとは

近年、京都市では伝統的なものづくりだけでなく、多様性を取り入れた近代的なものづくりも増えている。そこにUDの要素を掛け合わせることで、市民の日用品だけでなく、観光客へのお土産などにもUDの要素を含むようになり、京都市全体の暮らしやすさ満足度の向上に繋がる。

未来
性・新
技術

ものづくり×UD 多様な人々が多様に幸せをつかめるマチ

今まで京都は多言語対応の街づくりをし、外国人観光客を受け入れるための「多様性」を重視してきたが、今、UD（ユニバーサルデザイン）に着目した、「多様性」のある街づくりを推進している。その一環として、京都の職人によってUDを意識した日用品の製作がさかんに行われており、京都市民の日用品にあると同時に、観光客の新たな「お土産」としてとして着目がされている。その他、都市全体がUDを意識した都市政策が推進されている。

障がい者にとっても住みやすい街

視覚障害を持つ上京区在住のAさん（30）は、鴨川の入り口も目が見えない人でも通りやすように設計されており、とても歩きやすく、休日の楽しみになっている。

八つ橋に代わる新たなお土産

群馬県からの観光にきたBさん（20代女性）UDを意識したフライパンや椅子は群馬にはないので嬉しいし珍しい

アウトプット詳細4

新聞見出し:京都市が新たな取組みを始めました!

記事の概要

京都市がデジタル化を様々な制度に取り入れていく中の1つの取組みとして紹介しているのが、助け合いアプリ。

そのアプリの登録者数が全国平均20%のところ京都市民は60%も登録している。

その結果、京都市への転入者が転出者を上回り、暮らしやすさ満足度1位に輝いた。

助け合いアプリとは

心のUDに着目し、高齢者、外国人、障害者等が今困っていること「生の声」と投稿し、それに対応できる行政、民間企業もしくは市民が回答するというアプリ。

これにより、日常のどこに「困りごと」が潜んでいるのか助ける側、助けられる側の双方が把握し、UDのアイデアを思いつく1つのきっかけとなる。

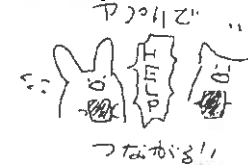
制度の
充実

京都市が新たな取組みを始めました。

京都市においてデジタル化を様々な制度に取り入れていくことが進んでいます。その中でサービスの主体が民間や市民に任せている取組みを紹介します。



困っている内容市民が気軽に投稿できるアプリを京都市と民間企業が手組んで開発した助け合いアプリの京都市民のアプリ登録者が全国平均を大きく上回りました。全国平均が20%だが、京都市においては、60%になりました。



その結果、京都市への転入者が転出者を上回り続けており、暮らしやすさ満足度においても全国1位になりました。

アウトプットサマリー

UDの今後について

UD先進都市京都を目指す！

それを実現するために必要なことは、ソフト面・ハード面・制度面ともに充実させていく必要がある。

まず、大前提としてUDを認知しているだけでとどめるのではなく、それを日常生活の中で考えてもらう必要がある。そのためには、行政・民間企業・市民が手を取り合い進めていくことが重要になってくる。

